(財)石川県産業創出支援機構 Ishikawa Sunrise Industries Creation Organization
新産業創出のための総合的支援情報誌「イシコ」

ISICO

vol.28

あなたのビジネスをインターネット上でサポート
DGnet URL ● http://www.isico.or.jp

ページ

06 産学官連携の最前線
トライアングル
横河電機(株) 金沢事業所

07 企業の成長戦略を探る
いしかわ発!熱血企業
大京(株)／(株)オノモリ

08 IT強国の現況を学ぶ
韓国IT最新事情セミナー

09 伝統工芸の販路拡大
ネット販売で反転攻勢
和座本舗(九谷物産(株))

10 海外での成功の秘訣を探る
海外進出レポート
(株)金田鉄工所

11 ISICOの取り組みをダイジェストで
イシコ・トピックス

12 融資・助成制度のご利用を
FINANCE

13 私たちがサポートします!
ISICOスタッフ紹介

16 県産品News
県産品News



02 | 巻頭特集

新産業の創出や産業人材の確保に向け、オーダーメードでISICOが支援

谷本正憲 理事長インタビュー

ISICOでは年間150回を超えるセミナーを開催し、人材育成などに努めている。

巻頭インタビュー

新産業の創出や産業人材の確保に向け、

オーダーメードでISICOが支援

ISICOが果たす役割やこれからのビジョンについて、
当財団の理事長でもある谷本正憲知事に聞きました。



谷本正憲
石川県知事

県内中小企業の総合サポートセンター・ISICOは今年で8年目を迎えました。産学官連携を通じた新産業の創出や販路開拓、企業再生、産業人材の確保など、支援メニューも充実しています。さまざまな専門分野に精通したスタッフが企業のニーズや実情に合わせて、企業の成長を多角的にサポートします。ぜひご活用ください。



――ISICOは設立以来、事業の柱として産学官連携による新産業の創出、次世代型企業の育成を掲げている。現在の取り組みは。

石川県は、金沢大学や北陸先端科学技術大学院大学、金沢工業大学、石川県立大学など、高等教育機関の高い集積度が特徴だ。一方で、技術開発に意欲的で、進取の気性に富んだ中小企業が数多く存在するなど、産学官連携に取り組む土壌は整っている。ISICOが企業と研究者のパイプ役として両者のマッチングを図ることで、新産業の創出を後押ししている。

石川県では、昨年策定した「産業革新戦略」の中でニッチトップ企業倍増という目標を掲げており、こうした取り組みを続けていくことで、目標も達成できると考えている。

連携を促進するための拠点としてはこれまで、能美市のいしかわサイエンスパーク内に低賃料のインキュベート施設「いしかわクリエイトラボ」や一戸建ての研究開発用賃貸施設「いしかわフロンティアラボ」などを整備してきた。

さらに、今年9月には石川県立大学の敷地内に独立行政法人中小企業基盤整備機構が大学連携型のインキュベート施設「i-BIRD（アイ・バード）」を開設する。

県立大学にはバイオテクノロジーや食品分野で実績のある先生方が集まっていることに加え、最新の研究機器も導入した。i-BIRDでは、全国トップレベルのハードとソフトを活用して、新産業育成に努めていきたい。県内企業にはバイオ・食品関係の研究センターとしてどんどん利用してほしいし、県外企業にも連携を呼びかけていく。

――国からの補助金を受けながら産学官が協力して進める大型プロジェクトの状況は。

平成16年度からスタートしている「知的クラスター創成事業」は、ISICOが中核機関となり、大学や県工業試験場の研究者をはじめ、民間企業18社が参加し、認知症の早期診断システムの開発に取り組んでいる。プロジェクトは3年目に突入しており、医工連携による医療機器開発などの産業創出を目指して、活動が本格化している。

また、産学官で新技術の実用化に向けた研究開発を行う平成18年度地域新生コンソーシアム研究開発事業にも2件が採択された。このうちの1件、「小動物用心磁計の研究開発」は知的クラスター創成事業で取り組んできた研究の事業化に向けた取り組みである。

――今年1月には、「知的クラスター創成事業」に参画する横河電機（株）（東京都）が金沢市内に事業所を開設した。

横河電機の進出は大きな意味で知的クラスター創成事業の成果の一つととらえている。同時に、今回の進出は、これからの石川県の企業誘致の方向性を示してくれたと感じている。

つまり、共同研究の中から企業誘致という成果を生み出していくのも高等教育機関が集積する石川らしい企業誘致のあり方であり、今後は、県外の大手企業と共同研究を進めている研究者の方々ともネットワークを強化していきたい。

――新産業の創出、ニッチトップ企業の育成の一方で、人口減少時代へ突入し、産業人材の育成が急務となっている。

特に最近は、ものづくり企業の皆さんから、人材不足が指摘されるようになってきた。企業を支えるのはやはり人材であり、人材の確保、育成、定着は大きな課題だ。

このため、ISICOでは今年7月、「人材支援課」を新設し、企業の人材対策を支援していく。人材支援課には人材アドバイザーを配置し、企業の求める人材像や能力などに十分配慮した人材確保・育成指導を行い、企業における社員研修の実施方法、早期離職を抑制するための工夫などをアドバイスしていく。

――団塊の世代が大量に退職する「2007年問題」に備え、技術の継承を危ぶむ声もある。

ISICOでは現在、「産学連携製造中核人材育成事業」を手がけている。昨年度、金沢工業大学と連携し、講

義や実習に必要なテキストを作成し、今年度から、30～40代の主任、工場長クラスの人材を対象に生産効率を高める機械や人員の配置方法について学んでもらっている。座学だけでなく、澁谷工業(株)(金沢市)や大同工業(株)(加賀市)など、県内企業にも協力を仰ぎ、工場内での実習も盛り込んだ実践的な教育プログラムが特徴となっている。

また、今年度からは「高専を活用した中小企業人材育成事業」もスタートさせた。こちらは20代の若手技術者を対象としており、石川高専と連携し、生産管理能力などを養ってもらい、将来のリーダーを育成することを目的としている。

――― 中小企業からは再生支援や事業転換に対するニーズも多い。

石川県では地元の金融機関の破たんにより、整理回収機構(RCC)に債権を譲渡された企業が多数あった。また、景気回復が進む一方で、構造変化に十分対応できず、経営危機に陥っている企業も少なくなかった。

しかし、そのような状況でも再生に意欲的で、すばらしい技術や商品を持った企業は多く、ISICOでは再生の可能性を秘めた企業に対して、常駐専門家による相談指導のほか、中小企業診断士、税理士など外部専門家も活用して企業の再生支援計画策定の支援などを行ってきた。

平成15～17年度までの3年間で再生計画策定を完了した件数は32件と全国上位で、今年度も引き続き支援していく。

これに加え、再生支援で功を奏した手法を経営革新に取り組む企業、起業家にも応用し、新製品開発や創業を後押しする考えだ。

――― 再生支援事業を通して、ISICOの支援対象も幅広くなってきた。

当初はものづくり企業を主な支援対象としていたが、金融機関の経営破たんでさまざまな業種の企業から相談が寄せられたことなどから、自ずと支援する業種の幅も広がってきた。

また、ここ数年、企業からのニーズがどんどん多様化しており、こうしたニーズにきめ細かく応えていくために支援メニューも幅広くなってきている。

例えば、農業分野への取り組みもその一つである。農業は、作物の品質だけを売り物にするのではなく、加工や販売など、新たな付加価値をつけることで、総合産業として活路が開ける可能性がある。ISICOでは現在、農業や食品加工分野の専門スタッフも加わり、そういった取り組みをサポートしており、今後も、あらゆる産業の皆さんから期待されるような存在感を発揮していく。

――― 読者の皆さまへメッセージを。

ISICOのスタッフは、スタート以来、質量ともに充実を図り、現在では100人を超える規模になった。支援メニューも産学官連携による研究開発から再生支援、販路開拓、産業人材の確保に至るまで幅広くそろえ、ワンストップサービスを提供している。

「元気な企業は、石川県の活力の源」という考えのもと、県内中小企業の総合サポートセンターとして、企業の抱える個別のニーズやそれぞれの実情を考慮したオーダーメードの支援を提供していくので、どんなことでも、まずは気軽に相談してほしい。





理事会
監 事　評議員会
理事長
副理事長
専務理事
常務理事(事務局長)

ISICO

業 務 組 織

総務企画部

組織の管理と事業の総合調整

● 総務企画課

産業振興部

中小企業の情報化の推進、受注・販路開拓支援
産業人材の確保・育成支援

● 産業情報課	広報、インフォメーション 産業情報の収集・発信、情報化支援
● 販路開拓課	取引情報の収集提供と取引あっせん、 販路開拓支援
・石川県ビジネス サポートセンター	首都圏ビジネス支援拠点 (東京都千代田区)
● 人材支援課 (平成18年7月1日から)	産業人材の育成・確保支援
・ジョブカフェ石川センター	産業人材の確保、 若年者の就業支援拠点
加賀サテライト	小松市
能登サテライト	七尾市

経営支援部

中小・ベンチャー企業の創造的事業活動の促進、
経営基盤の強化、再生、経営革新など総合的支援

● 経営支援課	総合相談窓口 中小・ベンチャー企業の経営基盤の 強化、経営革新支援
・新事業支援室	創造的・意欲的中小企業の発掘、 創業・新事業支援
・SOHOプラザ・ クリエーションオフィス	SOHOビジネス支援拠点
● 設備資金課	設備資金の貸付、設備の貸与・ リースによる設備導入支援
● 再生支援室	中小企業の再生、事業転換・ 新分野進出支援

プロジェクト推進部

産学官・産業間連携の推進と
共同研究による新技術開発の促進

● 研究交流課	産学官・産業間連携の推進 共同研究のコーディネート、 プロジェクト管理
・特許流通支援室	特許流通、知的財産活用支援
・つくば科学技術情報センター	つくば学園都市の情報収集、 研究者交流の推進
● 都市エリア推進室	都市エリア産学官連携促進事業の管理
● 知的クラスター推進室	知的クラスター創成事業の管理

サイエンスパークオフィス

サイエンスパークの活性化推進
新産業創造の支援拠点

・石川ハイテク交流センター	サイエンスパークの総合窓口・交流拠点
・いしかわクリエイトラボ	ベンチャー・研究開発型企業の インキュベート施設
・いしかわフロンティアラボ	ベンチャー・研究開発型企業の賃貸施設

Ishikawa Sunrise Industries Creation Organization

(財)石川県産業創出支援機構

所在地　〒920-8203
石川県金沢市鞍月2丁目20番地
石川県地場産業振興センター新館

TEL　076-267-1001
FAX　076-268-4911
URL　http://www.isico.or.jp
E-mail　info@isico.or.jp

※担当のスタッフに関しては、13〜15ページをご覧ください。

県内では、産学官の連携によって
ニュービジネス創造を目指す動きが本格化しています。
ここでは、その実例に迫ります。

脳磁計などを備えた「リサーチセンター」を開放



横河電機(株)

■ 所在地　本社／東京都武蔵野市中町2-9-32　TEL 0422-52-5555
金沢事業所／金沢市北陽台2-3（金沢テクノパーク内）　TEL 076-258-7000
■ 代表者　内田　勲　■ 設立　大正9年12月
■ 資本金　434億100万円　■ 従業員数　5,112名
■ 事業内容　制御機器、計測機器などの製造
●http://www.yokogawa.co.jp/

制御、計測機器大手の横河電機は今年1月、ライフサイエンス事業を担う新たな拠点として、金沢市の金沢テクノパーク内に金沢事業所を開設した。

ライフサイエンス事業は、同社が計測機器、制御機器に次ぐ将来の柱として期待する事業。脳深部の磁場を計測して脳の活動を調べる脳磁計、生きた細胞を観察する共焦点顕微鏡、人間がもつ固有の遺伝情報を利用して新薬を開発するゲノム創薬のための開発支援装置の3分野について、研究、開発、製造を進めている。

現在はエンジニアを中心に80人のスタッフで操業しており、2010年には500人体制まで拡充し、150億円の売り上げを目指している。

金沢事業所を統括する瀧岸眞一ライフサイエンス事業部長は、同社が金沢に進出した理由の一つとして「医学やバイオ、工学を専門とする大学や研究機関の集積」を挙げる。

実際、金沢工業大学とは脳磁計開発の初期段階から共同研究を進めるなど縁が深い。また、現在は、ISICOが中核となって進めている「知的クラスター創成事業」に参画し、県内の大学や民間企業とともに、認知症の早期診断システムの開発に取り組んでいる真っ最中だ。最近では金沢大学の医学部、工学部の研究者と意見交換を重ねるなど、連携体制の構築を図っている。



金沢事業所の中に設けられた「リサーチセンター」。脳磁計（写真左奥）などを備え、研究者らに開放する

こうした動きをさらに加速させようと、同社では金沢事業所内に産学官連携の拠点となる「リサーチセンター」を整備した。

センターには脳磁計や共焦点顕微鏡など同社の製品を備えたほか、論文執筆室も確保し、大学などの研究者らに開放する。瀧岸部長は「研究者の皆さんに最新機器を使って研究してもらい、論文を出してほしい。ゆくゆくは金沢がライフサイエンスの情報発信基地になれば」と期待を膨らませる。



金沢事業所を統括する瀧岸ライフサイエンス事業部長

もちろん、同社にとっても研究者に施設を利用してもらうメリットは大きい。というのも、機器開発そのものは同社の得意とするところだが、例えば、脳磁計を認知症やてんかんの診断に応用するなど、その用途を広げていくのは社内だけでは難しく、リサーチセンターでの研究成果が機器の用途拡大や改良につながるからである。

このほか、瀧岸部長は「石川県は数々の伝統工芸を育むなど、ものづくりのDNAを受け継ぐ土地柄だけに、開発時の試作や製品テストに関しても環境が整っている」と話し、県内企業や県工業試験場との連携も強めながら、新製品の開発を進めていく考えだ。

いしかわ発！熱血企業

企業の成長戦略を探る

石川県には、キラリと光る技術を持つ企業がたくさんあります。
そういった技術力を認められ、県外企業からも幅広く受注に成功している
ものづくり企業の成長戦略を紹介します。

大京(株)

日本最大級の塗装設備 今秋にはタイで新工場が稼働

大京ではキャブ（運転席）やエンジンフードなど、建設･鉱山機械用部品の板金溶接、塗装、組立を手がけている。中でも、同社が真骨頂を発揮するのが、創業以来、事業の中核を担ってきた塗装の分野である。その中で主力となっているのが、カチオン電着塗装だ。これは電気的に塗料を付着させる手法で、紫外線などによる耐候性、さび止め効果を向上させ、自動車並みの美しい塗装を実現する。

昨年9月には、同社で二つ目となるカチオン電着塗装ライン（写真）を導入した。塗装槽は軽自動車2台がすっぽりと入るほどの大きさ。大きな部品を丸ごと浸すことができるので、複雑な形状の部品でも塗料を隅々まで行き渡らせることが可能だ。

また、従来の塗装ラインに使用しているアイボリーの塗料ではなく、需要の高い黒色専用ラインとした。アクリル樹脂塗料を使用することで、1回で下塗りと上塗りを兼ねた品質が得られるようになり、約40％のコストダウンにつながった。同社の二宮吉男社長は「塗装会社としては日本最大の設備」と胸を張る。

近年、海外での建設･鉱山機械需要が高まっていることから、中国･山東省の工場に加え、今年11月からはタイで新工場を稼働させる。タイ工場では、東南アジアやヨーロッパ向けの生産を担い、初年度は30億円の売り上げを目指す。

今年7月には設立30周年を迎え、記念式典では独自に開発した新製品を発表する。二宮社長は「これを機にオリジナル製品の開発にも力を入れていきたい」と意気込んでいる。

■ 所在地　小松市串町工業団地1-1
TEL　0761-44-1111
■ 代表者　二宮 吉男　■ 設立　昭和51年7月
■ 資本金　9,900万円　■ 従業員数　370名
■ 事業内容　建設･鉱山機械部品の板金溶接、塗装、組立
●http://www.bigtoday.co.jp/



建設機械の塗装需要を見込んで整備した黒色専用のカチオン電着塗装ライン

(株)オノモリ

繊維機械の技術を生かし 環境分野などへ進出

創業以来、40年にわたって合繊織物用の染色仕上機械を製造してきたオノモリ。設計から板金溶接、機械加工、組立までの一貫生産体制を構築し、近年では、繊維機械で蓄積してきた技術を生かして、さまざまな分野へと業容を拡大している。

「繊維用の機械は水や蒸気、薬品を扱うので、ステンレス鋼材の板金や溶接、表面処理は当社の得意とするところ」と話すのは同社の小野森守社長。また、高圧あるいは低圧、真空などの状態を作りだす容器の製造を得意としており、圧力容器に関しては日本と中国で製造認可を取得している。同社では、これらのコア技術を活用し、環境関連機械や化学機械を製造。その中の一つが、真空乾燥システム「ＲＶＤシリーズ」だ。

これは生ゴミや汚泥など、水分を多く含んだ廃棄物を真空乾燥で減量化する装置。真空なので低温での乾燥となり、エネルギー効率が良く、悪臭の発生を抑えた。装置の本体は耐食性に優れたステンレス鋼材を用いている。今までに全国の有名ホテルや大手食品会社などへの納入実績を持っている。

こうした機械の製造が順調に伸び、現在ではかつての主力だった繊維機械の売り上げ比率が10％にまで下がり、同時に、自社製品の売り上げが30～40％を占めるまでに伸びてきた。

小野森社長は「今後も一貫体制を維持しつつ、オーダーメードの加工機械から提案型の開発機械までを手がけるエンジニアリング企業を目指す」と話し、ゆくゆくは自社製品の比率を50％にまで高める考えだ。

■ 所在地　能美市上清水町タ30番地1
TEL　0761-51-5755
■ 代表者　小野森 守　■ 設立　昭和42年4月
■ 資本金　2億9,000万円　■ 従業員数　65名
■ 事業内容　繊維機械、産業機械の設計、製作
●http://www.onomori.co.jp/



オノモリの自社製品は環境関連機械や金属加工機械など多彩。写真は化学機械



韓国の最新IT事情を探る

今年からモバイル向け高速通信が登場！

ISICOは5月18日(木)、e-messe kanazawa 2006を開催中の県産業展示館で、「韓国IT最新事情セミナー」を開催した。当日は、韓日ITジャーナリストの趙章恩氏が、「IT強国韓国の現況と日本が学ぶべき戦略」と題して講演。ここではその内容をダイジェストで紹介する。

趙 章恩（チョウ チャンウン）氏

韓国ソウル生まれ。東京韓国学校初中高等部、梨花女子大学（ソウル）卒業。韓国大手企業の日本担当部署を経て、現在、韓国のIT企業の海外進出サポート、ウェブサイト企画から構築までを指揮するプロデューサー。著書に「韓国インターネットの技を盗め」（アスキー刊）など。

無料のパソコンが街中に 各種申請もネットでOK

韓国では現在、「u-IT839戦略」に沿ってさらなる情報通信化に取り組んでいます。この戦略は「通信と放送の融合」「有線と無線の融合」に焦点を当てたのが特徴で、昨年には、世界に先駆けてDMB（日本で言うワンセグ）をスタートしました。さらに、今年はWibro（ワイブロ）という時速120キロの車の中でも使えるモバイル向け高速無線インターネットのサービス開始を予定し、移動中でも大容量データをやりとりできる環境が整います。

韓国の05年末時点のネット利用率は72.8%です。この中で特筆すべき点は、3～5歳の幼児でも47.9%が日常的にネットを利用しているということです（韓国ではすでに3歳以上の幼児も対象に統計を取っている）。

街中には、わざわざインターネットカフェにいかなくても、無料で使えるパソコンが至る所にあります。一般家庭ではデジタル家電の利用が進んでおり、いわゆるおサイフケータイやナンバーポータビリティーもすでに導入されています。

2002年からは電子政府が実現し、さまざまな書類をネット申請できるまでに発達しました。大学入試や公務員試験、司法試験なども100%ネットで手続きをします。

予約録画は死語に 再放送はネットで購入

市民のネット生活を少し紹介しましょう。韓国ではTVドラマの再放送分を1本50～100円でネット配信しています。放送終了後、24時間以内に、洋画など一部を除き全ての番組がネット上にアップされ、VOD（ビデオ・オンデマンド）で楽しむことができます。ネットを使えば、いつでも再放送が見れるのでDVDレコーダーは売れなくなりました。予約録画はもう死語です。

VODによるテレビ局の収益はどんどん増えていて、あるテレビ局では年間24億円を売り上げています。

またVODと連動してネットショッピングを楽しむこともできます。例えば、ドラマの中のある場面を選択すると主人公が着ている衣装の詳細が出てきて、ショッピングサイトと連動するといった具合です。

ネットでの消費活動が活発な要因の一つは、多彩で便利な決済システムにあります。一番よく使われているのは携帯電話による少額決済です。また、クレジットカード会社やお店が発行するポイントなどを全部まとめて使えるOK CASH BACK、固定電話の料金に合算される仕組みなども利用されています。



IT先進国・韓国の現状を解説

Talk Session

趙 章恩氏 × 阿部 和也氏 × 松崎 秀規氏



韓国ベンチャーとの連携について実体験を踏まえ討論

セミナー終了後、趙氏は、韓国企業と提携している（株）シーピーユー 開発研究室の阿部和也氏、（株）アイ・ツーの松崎秀規代表取締役とトークセッションを行った。

そこでは、連携においてお互いを理解するための徹底的なコミュニケーションの大切さ、韓国のバラエティー豊かなコンテンツ及びブロードバンド環境の利用価値などを中心に討論された。

ISICOでは今年4月から、新たに（財）日韓産業技術協力財団と協力し、韓国・大邱広域市の（財）大邱デジタル産業振興院（DIP）と引き続き連携を図っていく。

伝統工芸の販路拡大

ネット販売で反転攻勢
作家の発掘など、九谷焼をプロデュース



コレクション性の高い商品づくりも戦略のひとつ。西田代表が手にしているのは季節限定生産で人気があるチビ招き猫・桜吹雪バージョン。

伝統工芸品の販売不振が叫ばれて久しい。
そんな中、ネット販売に活路を見いだし、
順調に売り上げを伸ばしているのが
九谷焼の販売を手がけるネットショップ「和座本舗」である。
同店の西田上（じょう）代表に、ネットを活用した伝統工芸品の
販路開拓について聞いた。

和座本舗（九谷物産（株））

■ 所在地　能美市寺井町レ88　TEL　0761-57-2121
■ 代表者　西田 上　■ 設立　昭和44年11月
■ 資本金　1,430万円　■ 従業員数　5名
■ 事業内容　九谷焼販売

興味を持つ人に直接アピールしたい

「和座本舗」では自社サイトのほか、大手ショッピングモールの楽天市場、Yahoo!ショッピングにも出店し、現在3店舗を運営している。ネット通販による年商は5,500万円で、会社全体の8割を占める。今年3月には、特定非営利活動法人全国イーコマース協議会が主催する「1000人の店長が選んだベストＥＣショップ大賞2006」で大賞に輝いた。

消費者はもちろん、同業者からも認められる人気ショップのオープンは平成12年3月のことだ。ショップの母体は昭和44年から九谷焼を販売してきた九谷物産である。法人向けギフト商品のカタログ販売を主力としてきた同社は、バブル以降、売り上げが低迷。「売れないところでもがくより、売れる市場に出て勝負したい」。西田代表はそう考えてネット販売に乗りだした。

確かにそれまで営業対象としてきたデパートや百貨店には大勢の来客がある。しかし、食器、それも九谷焼が目当てとなれば、それはほんの一握りに過ぎない。それならば食器や九谷焼を探している人と直接コミュニケーションできるネットを活用しようというわけだ。



http://www.wa-za.net/

自らの言葉で商品の魅力を語る

当時から伝統工芸品はネット販売に適さないと言われていたが、西田代表は「九谷焼の魅力は絵柄やデザイン。実物を手に取らなくても買ってくれる」と考えていた。そこでネットショップには、忠実な色の再現、商品の立体感などを念頭に自ら撮影した写真を、商品1点につき3～4点掲載した。合わせて、作家の情報やこだわり、商品の背景にある物語性を自身の言葉で紹介した。どちらも、スペースの限られた紙のカタログでは難しかったことだ。

さらに、一度利用してくれた顧客と太く、長く付きあうため、メールマガジンを頻繁に発行するなど、継続的に商品情報を提供。顧客が増えてくると、購買力に応じてセグメントし、それぞれのニーズに応じた情報を発信し、購買意欲をより刺激した。

こうした取り組みが実を結び、一度購入してくれるとほとんどの人がリピーターになってくれた。メールマガジンの登録者数は現在、55,000人を数える。

窯元に市場ニーズを提供若手作家にもチャンスを

売れる商品を作るため、西田代表は和食器プロデューサーとしての役割も発揮している。

例えば、老舗の窯元に市場のニーズを汲んだデザインを提案して新作を作ってもらったり、サイト内では技術のある若手作家にスポットを当てている。また、数ある商品の中から季節に応じて茶碗や皿、湯飲みなど、複数のアイテムをコーディネートし、セット商品として提案することもある。

ネットショップの運営が軌道に乗った今、これからのビジョンとして掲げるのは、実店舗のオープンだ。九谷物産では2年前、能美市内にあった店舗を閉めたが、顧客の多い東京や大阪にアンテナショップを出店することで、ネットショップとの相乗効果を狙う。

また、ネットで成功した手法で、既存のカタログも再生できないか検討中だ。九谷焼をいかに販売するか。西田代表は、「和座本舗」のブランド確立に今日も思いを巡らせている。

蘇州に独資企業を設立
今年9月から新工場が稼働
巨大市場を狙って生産能力を増強

小松ー上海便が週3便となり、
県内企業にとっては中国とのビジネスチャンスがより拡大した。
中国の可能性に魅せられた企業トップに話を聞いた。

(株)金田鉄工所

■ 所在地　白山市福留町292
　TEL 076-277-1335
■ 代表者　金田 喜至
■ 設立　昭和37年9月
■ 資本金　3,500万円
■ 従業員数　47人
■ 事業内容　金属プレス加工

現地向けの機構部品などを製造

金田鉄工所は今年9月、中国・蘇州市の経済開発特別区で、板金溶接、機械加工を主に手がける新工場を稼働させる。中国に進出している日系メーカーなどに対して拡販を図り、5年後をめどに年間売上高1億人民元(※)を見込む。

新工場は、一昨年に同社が独資で設立した蘇州新金田機電技術有限公司の製造拠点となる。敷地面積は約33,000平方メートル、建築面積は約8,000平方メートル。各種製造機械のほか、将来のOEM生産を見すえて、空調を効かせた環境下で組立作業が行えるよう配慮した。当初は20人体制でスタートする。



伸びゆく巨大市場を見すえて設立した蘇州新金田機電技術有限公司

「技術よりも市場ありき」に共感し、合弁に乗り出す

同社が中国との交流をスタートさせたのは昭和59年にさかのぼる。県鉄工機電協会の日中経済交流事業の一環として、蘇州市の企業を視察したのが始まりだ。翌々年には技術研修生を受け入れ、金型やプレス加工の技術を手取り足取り教えた。「当時はビジネスパートナーとしてはまったく意識していなかった」と金田喜至社長は振り返り、あくまでもボランティア精神で技術交流に取り組んだという。

同社がビジネスの側面から中国とかかわりはじめたのは平成8年のこと。電話交換機などを製造していた蘇州有線電一廠から、「当公司の加工部門を分離し、御社と合弁企業を設立したい」ともちかけられたのだ。

金田社長は「技術よりも市場ありき」、つまりどんなに優れた技術でも売れなければ価値がないと考える先方の経営者の価値観に共感し、合弁に踏み切った。

金田鉄工所が55%、蘇州有線電一廠が45%を出資した蘇州金田機電部品有限公司は、設立後、日本への輸入は視野に入れず、中国市場の開拓に専念。取引先は40数社を数え、年商は4,000万人民元を狙えるところまできた。

独資で設立し、中国進出は新たな段階へ

経営は安定していたが、一方で、金田社長はジレンマも抱えていた。合弁会社には国営企業時代の社員も多く、社内のドラスティックな意識改革が難しかった。そこで、合弁企業が安定しているうちに独資企業を別に立ち上げ、新たな市場に対応したいと考えたのだ。

新工場では、「規模は追求せず、少数精鋭でいく。チャンスがあれば自社製品にも挑戦したい」と金田社長はビジョンを明かす。

金田社長にとって中国への進出は、自分たちが長年積み上げてきた技術を必要とされていることが最大の理由だった。しかし、今では様相が変わり、中国でビジネスを展開する醍醐味は、何と言っても世界中の企業が集中する巨大市場にある。「チャンスをものにするためには、社員全員が顧客の心をつかむために、一丸となれることが絶対条件となる」(金田社長)という確信のもと、金田鉄工所の中国ビジネスは新たな展開を迎えようとしている。



中国市場の開拓に力を入れる金田社長

(※) 1人民元=14.02円 (平成18年6月1日現在)

TOPICS
イシコ・トピックス

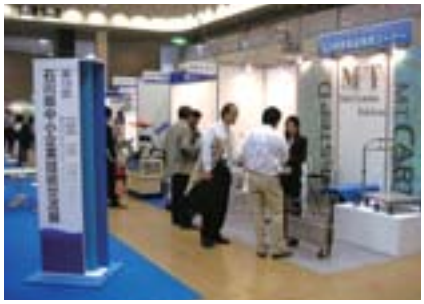
ISICOでは、県内の中小・ベンチャー企業の活性化、
産学官連携の推進のため、さまざまな取り組みを行っています。
その様子をダイジェストでどうぞ！

ビジネスチャンス獲得に向け、受発注企業が積極的に交流

石川県企業交流懇談会
～谷本知事によるトップセールス～


新規受注を目指す県内企業と取引の可能性を探る県外企業の交流で会場は熱気に包まれた


自らトップセールスを行う谷本知事


石川県中小企業技術交流展では71社9組合・グループが技術力を披露した

石川県とISICOは5月18日（木）、県内中小企業の受注機会の拡大を図るため、金沢エクセルホテル東急で「石川県企業交流懇談会」を開催した。県外から大手・中堅発注企業41社の役員、発注担当部課長47名が参加。石川県からは、ISICO理事長の谷本正憲知事をはじめ県内企業98社106名が参加した。

懇談会は、発注企業と受注企業の情報交換会からスタート。会場のいたるところで活発に名刺交換が行われ、県内企業の参加者は熱心に自社の技術力や生産体制をアピールした。

その後、会場を移して、発注企業と受注企業が各テーブルに同席し、交流を深めた。冒頭あいさつに立った谷本知事は、「名刺交換を通じ、お互いを理解し、この機会をぜひ生かしてほしい」と呼びかけた。発注企業代表のサンケン電気（株）江角輝夫取締役常務執行役員からの乾杯の音頭の後、活発な意見交換が行われた。

最後に、受注企業代表の（株）高林製作所 高林健一代表取締役社長が「知事のトップセールスのもと、お客様のニーズに応えるよう努力していく」とあいさつし、懇談会は盛況裡に終了した。

また、18日（木）から3日間、ISICOは県産業展示館2号館で「石川県中小企業技術交流展」を開催した。会期中は、約54,000人が来場し、71社9組合・グループがそれぞれの技術、開発の成果を一堂に展示し、PRを行った。

独自性の高い技術を誇る県内5社が選出される

中小企業庁が選定する
「元気なモノ作り中小企業300社」

今年4月、中小企業庁が選定する「明日の日本を支える元気なモノ作り中小企業300社」に県内から右記の5社が選ばれました。

各々、世界規模の市場で高いシェアを持つ製品を製造していることや独創的な技術を持つことなどが評価されました。

おめでとうございます。

会社名	選定理由
（株）石野製作所（金沢市）	コンベア技術に自動給茶装置をドッキングさせた回転寿司コンベア機で日本の食文化に革命を興し、世界シェアの60%を獲得。
（株）ビルドス（小松市）	世界で初めて米連邦航空局（FAA）の基準をクリアした繊維強化プラスチック（FRP）製の航空機用洗面カウンターを製作し、世界シェア40%を獲得。
（株）明石合銅（白山市）	鋼に銅合金を接合する技術によって、2つの金属の長所を持つ理想的な油圧ポンプ用シリンダーブロックを製造し、その国内シェアは100%。
オリエンタルチエン工業（株）（白山市）	「世界最小のチェーンをつくろう」を合言葉に、ピッチ3.175mmの産業機械用チェーンの量産技術を確立。内視鏡用チェーンでは世界シェア70%。
（株）東振精機（能美市）	サブミクロンの高精度（1/10,000mm）でベアリング組込用ローラを製造する専門メーカー。高精度ローラは世界中に供給され、国内でのシェアは70%。

FINANCE

経営の安定や積極的な事業展開を支援する融資・助成制度のご紹介です。

「設備投資に対する助成がさらに充実しました」

【お問い合わせ】
(財) 石川県産業創出支援機構
経営支援部 設備資金課
TEL 076-267-1174

● 設備貸与制度(割賦・リース)

貸与損料／年2.75% ── 対象業種、対象設備の指定なし
利子助成制度により、設備貸与の貸与金利が
実質0.92%とお得

〈金沢市内の企業の場合〉

借入金利2.75%が、県からの利子助成0.5%(貸付期間中)
金沢市の利子助成2.0%(3年間限定)で実質 0.92%となります。
ただし、 対象業種は、機械金属、電機電子などの製造業。

※各市により、利子助成制度が異なりますので詳細については、お問い合わせください。
※実質金利の計算は、返済期間を7年で計算しており、返済期間が短くなると更に金利は下がります。

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	備 考
貸与金利 ❶	2.75%	2.75%	2.75%	2.75%	2.75%	2.75%	2.75%	
石川県助成金利 ❷	0.50%	0.50%	0.50%	0.50%	0.50%	0.50%	0.50%	全貸与期間
金沢市助成金利 ❸	2.00%	2.00%	2.00%					3年間
助成金利合計 ❷+❸	2.50%	2.50%	2.50%	0.50%	0.50%	0.50%	0.50%	
実質負担金利 ❶-❷-❸	0.25%	0.25%	0.25%	2.25%	2.25%	2.25%	2.25%	

● 設備資金貸付制度

設備資金の1/2を限度 ── 無利子、対象業種、対象設備の指定なし
(7年償還、据置期間は、半年または1年)

ISICOライブラリー　書籍・ビデオ情報

ISICOライブラリーでは、皆様のご要望を取り入れながら、随時、書籍・ビデオの整備を行っています。お気軽にお立ち寄りください。

■書籍情報
「日本マーケットシェア事典」「中小企業白書」「科学技術白書」「環境白書」の各最新版を整備しました。閲覧ができますので、ぜひご活用ください。

■ビデオ情報
近年、さまざまな業種で、「トヨタ式」を導入して大きな成果を出している企業が増えています。今なぜ「トヨタ式」なのでしょうか？ 多品種少量生産の実現、生産性の向上、競争力の強化 ……、いろいろとその理由が挙げられますが、一番重要なことは「人が育つ」ということです。「トヨタ式」の各ポイントが明示してある格好の教材ですので、ぜひご活用ください。



「人が育つトヨタ式改善の進め方(全3巻)」

開館時間
月～金曜日　8時30分～19時30分
土曜日　10時～17時

休館日
原則として日曜・祝祭日、
年末年始(12月29日～1月3日)
※このほか、都合により休館することもあります。

【お問い合わせ】
(財) 石川県産業創出支援機構
産業振興部 産業情報課
TEL 076-267-1001

いしかわクリエイトラボ入居者募集

いしかわサイエンスパーク内のインキュベート施設「いしかわクリエイトラボ」では、現在、入居企業を以下の通り募集しています。

■募集区画(H18.6.1現在)
・50㎡×8区画(50㎡区画を2区画以上借りること可)
・25㎡×5区画

■応募資格
(1)インキュベータ
●新分野への進出、技術開発など、創造的企業活動を行う中小企業
●独自の事務所・研究室が持てない小規模企業
●創業まもない中小企業、これから起業を目指す意欲ある方
(2)レンタル・ラボ
●研究開発に取り組むすべての企業
●入居から5年を経過したインキュベータ

■利用料金
●賃貸料
【インキュベータ】
1㎡あたり2,000円／月
【レンタル・ラボ】
1㎡あたり3,000円／月
●共益費　1㎡あたり500円／月
●保証金　月額賃貸料の2カ月相当

■利用期間
インキュベータは5年間
レンタルラボの利用は制限なし

■入居者特典
●高速インターネット完備
(最大100Mbps)常時接続
●24時間365日利用可能
●無料駐車場
●北陸先端科学技術大学院大学との共同研究の場合は、大学の設備も一部利用可能

【お問い合わせ】
(財)石川県産業創出支援機構
サイエンスパークオフィス
TEL 0761-51-0122

県産品News

このコーナーでは、県内の中小企業の製品の中から、ISICOが主催する展示会に出展された製品を紹介します。今回は、5月18日(木)～20日(土)に開催した「石川県中小企業技術交流展」に出展され、石川ブランド優秀新製品として認定された製品のうち、4点です。

カエル博士のフラッシュバッジ

(高輝度LEDフラッシュバッジ・ソーラー充電装置)

強い光を放つ高輝度LEDを利用したバッジで、連続16時間の点滅が可能。夜間でも約300メートル先から視認できるため、交通事故防止の安全グッズなどへの利用が見込まれている。形や絵柄、点滅場所は自由にオーダーメードでき、会社PRなどにも活用できる。



(株)カエル博士 TEL 076-267-0005
http://www.kaeru-hakase.co.jp

友禅シート

伝統の加賀友禅模様を描いた紙や布に樹脂をコーティングして、シート状に加工。UVカットの樹脂を用いているため変色しにくく、耐水性にも優れている。機能性とデザイン性を兼ね備えたインテリア用品として、テーブルクロスやランチョンマットなどに最適。



工房久恒 TEL 076-251-7184
http://www18.ocn.ne.jp/~yumeki/

ふぃっと椀

指を添える部分に厚みを加えているため、熱湯を注いでも熱くなりにくく容易に持ち運ぶことができる。また、高台の周辺に付けたくぼみが滑り止めの役割を果たしており、握力の弱い高齢者や子供にも使い勝手がいい。県工業試験場と共同で研究開発を行った。



(株) タカノ TEL 0761-77-0135
http://www.takano-tc.co.jp

左官アート額

伝統的な左官技法で仕上げた、砂、しっくい、珪藻土などの自然素材の土壁を、45cm四方の額に閉じ込めた。心癒やされる芸術的なインテリアとして、和室はもちろん洋室にもマッチ。落ち着いた「和」の雰囲気を感じることができる。デザインのバリエーションも豊富。



(株) イスルギ TEL 076-247-4646
http://www.k-isurugi.co.jp/

最新情報の収集から、経営や技術に関する相談、産学官のネットワーク形成など、あなたのビジネスをインターネット上で支援するDGnet（デジネット）をご活用ください。

さらに詳しい情報・最新情報は、DG net↓
http://www.isico.or.jp
をご覧ください。

Ishikawa Sunrise Industries Creation Organization

財団法人
石川県産業創出支援機構
Ishikawa Sunrise Industries Creation Organization

●お問い合わせは
TEL:076(267)1001
FAX:076(268)4911
〒920-8203 石川県金沢市鞍月2丁目20番地
石川県地場産業振興センター新館
URL http://www.isico.or.jp
E-mail info@isico.or.jp

編集後記

今年度は情報誌の発行を年6回とし、よりタイムリーに情報提供いたします。そして、スタッフ一同、今後も皆様のニーズに合った事業を行えるよう、全力で対応いたします。

[発行月] 2006年6月(年6回発行) [発行所] 財団法人 石川県産業創出支援機構 [編集協力] ライターハウス／金沢市問屋町1丁目75番地

R100 古紙配合率100%再生紙を使用しています